

中 学 校

平 成 13 年 度

教 育 研 究 員 研 究 報 告 書

美

術

東 京 都 教 職 員 研 修 セ ン タ ー

平成13年度

教育研究員名簿（美術）

区市町村名	学 校 名	氏 名
墨 田 区	墨田区立吾嬬第一中学校	清 水 隆 一
世 田 谷 区	世田谷区立梅丘中学校	浦 辺 光
杉 並 区	杉並区立阿佐ヶ谷中学校	高 原 都
葛 飾 区	葛飾区立奥戸中学校	角 田 知 子
立 川 市	立川市立立川第九中学校	岩 崎 治 彦
府 中 市	府中市立府中第五中学校	前 田 眞 一
日 野 市	日野市立日野第一中学校	中 屋 珠 美
八 丈 町	八丈町立大賀郷中学校	川 口 憲一郎

[担当] 東京都教職員研修センター指導主事 杉 本 昌 裕

「感じる心・感じ合う心」を育てる指導の工夫

目 次

研究主題	2
I 研究主題の設定	2
II 研究の内容・方法	3
III 授業等における研究	
1 色彩の学習（色彩体験を交えて）	4
2 映像言語で表現する「アニメーション制作を通じて」	7
3 いくつかの想定から発想する空想画	10
4 ヴィジュアル・ミュージック～映像詩の制作	12
5 レリーフペインティングを使った構成	14
6 『中学生の私』	16
7 年間指導計画例～題材の配列と評価～	19
8 1 単位時間で完結する課題の例	22
IV 研究のまとめ	24

研究主題 「感じる心・感じ合う心」を育てる指導の工夫

I 主題設定の理由

1 中学生をとりまく現状

美術やその他の芸術的表現に限らず、最近の子ども達は、自己表現が苦手になってきているように思える。

自己表現は、他者とのコミュニケーションの重要な土台であり、それが未熟であれば他者とのかわりがうまく保てないのは当然の成行きである。最近のニュースや新聞を見ると人間性の欠如したような事件が報道されている。この背景には『自己表現の未熟さ』を感じる人が多い。

このような事態やその土壌となる社会環境は、見て見ぬ振りでは済まされない問題を抱えている。いつでも、どこでも、だれでも遭遇しうる身近な問題として直視し、人間の「いのち」にかかわる問題と考え改善を図る必要がある。

2 「感じる心」の重要性

多くの表現活動において、その入口は感覚である。まず感じることから始まって、感情を揺り動かし、思考を促し、意思に作用し、表現活動へと昇華していく。同じモノ＝対象から出発しても一人一人の感じ方や深まりの違いが、個々の表現の違いとなって現れてくる。どのような感じ方であっても、一人一人の生徒にとっては、大切な真実であるがゆえに尊重されなければならない。また、感じることはすべての出発点である。ただし、美的体験の積み重ねによって感覚は一層磨かれ、『美しいものを美しいと感じる心』が深められるということを忘れてはならない。

「感じる心」を育てるには、表現活動を通して自分自身をより深く理解し、鑑賞を通して他者との感じ方の違いや互いのよさに気づき、自己の新たな感性を開き、表現の更なる可能性を引き出し伸ばすことが重要である。

3 美術の学習が「心」に働きかける有効性

美術における表現活動の中には、情操をはぐくむとともに、心を癒すような効果が含まれている。教師が、「生徒一人一人の心の開放」を意識した授業を展開することによって、人間性豊かな自己表現の成果が期待できる。

一方、「感じ合う心」を育てるには、作品等の鑑賞の学習を通して、共感や批評を加えながら自他を認め合う活動が大切になっている。他者の感じ方・考え方を他者の立場になって理解するとともに、他者の作品に対し、自らの意見をもって批評できるようになることは、これからの社会で必要なコミュニケーション能力を育成することにつながる。このような美的な体験活動を通して生徒の『感じる心・感じ合う心』を育てることが「自己表現力」を高める上で有効な手だての一つである。

4 教師の関わり方

心身共に成長の過渡期にある中学生の発達段階では、基礎的な感覚を身に付け、「感じること感じ合うこと」を促せるような授業の内容や教材の工夫が必要である。生徒一人一人のどのような感覚を尊重し深めさせ、表現に結びつけられるようにするかが、教師の役割である。

本研究では、生徒が感覚を磨き、心を成長させ、自発性・自主性を一層を育てられるような授業や年間指導計画等の構築の仕方を開発するとともに教師の指導の工夫や生徒とのかかわり方を

探求することをねらいとした。

II 研究の内容・方法

本研究主題である「感じる心・感じ合う心を育てる指導の工夫」について検証するにあたっては、次の2点から研究を進め、下の3つのグループに分かれ検証することとした。

- 題材や授業の流れ、授業内容等から研究を進める。
- 平成14年度から実施の新学習指導要領における課題解決を含めた研究を進める。

(1) 題材や授業の流れ、授業内容、材料用具等からの研究及び検証

題 材 名 等	感じる心・感じ合う心を育てる指導の工夫	研究のキーワード	頁
空想画を題材として	空想画家の作品鑑賞、自他の作品鑑賞	発想・構想、自己評価	10
基礎的な色彩学習 (体験)を通して	身近な自然を手がかりとした学習 基礎的・基本的な色づくり(100色)	生活体験の広がり 基礎的・基本的な能力	4
アートボックス ー中学生の私ー	授業ごとの記録継続(ポートフォリオ)、 素材と表現方法等の選択能力の育成	ふり返り、ディスカッション ワークシート、シェアリング	16
レリ-フペ°インテイング° を使った構成	現代美術作家フランク・ステラから 毎時間の達成感・成就感の重視	自己表現、他者理解 言葉で気持ちを表す	14

(2) 映像メディア表現を取り入れた題材からの研究及び検証

アニメーション制作	つくってみないと分からないことを学ぶ	映像言語、つくる喜び	7
ヴィジュアル・ミュージック(映像詩)	イメージ(音や音楽)の明確化、共同制作 鑑賞・意見交換・差異の発見	共振と交換 鑑賞会と鑑賞シート	12

(3) 新学習指導要領上の課題解決の中での研究及び検証

年間指導計画 題材の配列と評価	第1学年の指導計画(指導の継続と発展) 題材の精選、評価の工夫と評価基準	年間45時間の工夫 達成目標の明確化	19
短時間の題材 ー基礎力の育成ー	1単位時間の授業案と次時への継続性 短時間題材における集中力の育成	授業構成 指導の適時性	22

III 授業における研究

色彩の学習（色彩体験を交えて）〔第1学年・6時間〕

1 題材設定の理由

1年時に色彩の基礎を学ぶに当たっては、単なる知識の学習にならないこと、学習した内容をいかに生徒が自分の感覚と共に習得すること、どのように作品の制作や生活の中で活かせるようにすることなどが学習する本来のねらいや意義である。

その手だてとして、知識として学んだことや感覚を追体験することにより、思考 $\leftrightarrow$ 感覚の循環を促して色を体感的に捉え、且つ、水彩画や混色の技法にも発展できるような力が身に付くような授業の流れについて考えてみた。

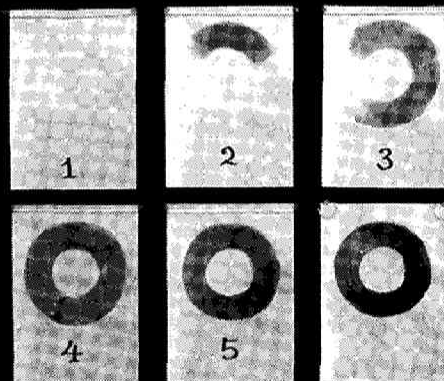
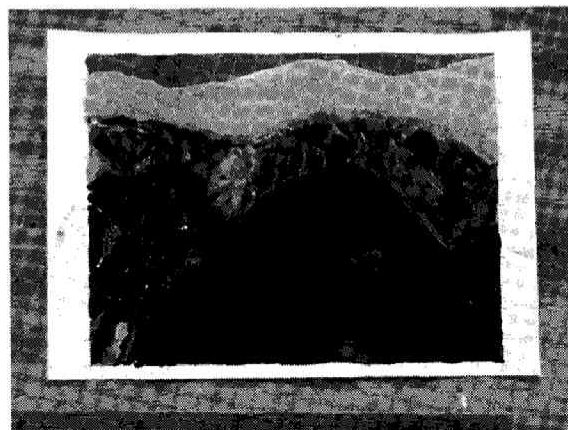
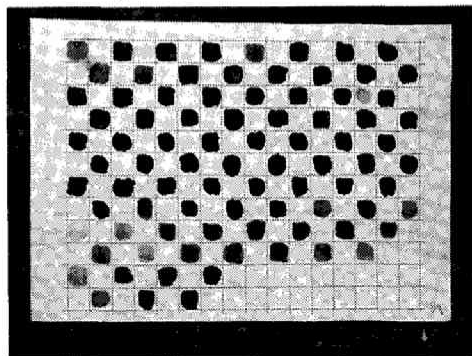
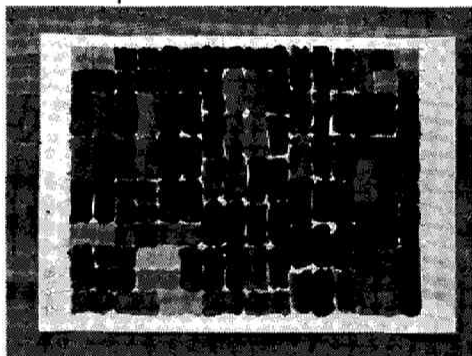
2 指導のねらい

- (1) 色の三属性（三要素）や色の大別、色相環、色立体、三原色、色の感情など、色の性質についての基本的内容を理解する。
- (2) 身近な自然（新緑）の色などを手がかりに色相や明度、彩度の変化を見取りながら、色の異なる様々な緑（目標=100色）を混色できるようにする。
- (3) 赤、黄、青の三色から色相環を彩色して色相の連続した変化が表せるようにし、また、水彩のにじみの技法が習得できるようにする。
- (4) この題材の学習や実習から身に付いたものを、次の題材である風景画（水彩）にも活かせるようにする。

3 学習の展開

指導の流れ	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	・なぜ色が見えるのか、またヒトの色覚の特徴について理解する。 ・身近にある色と人間の生活との関わりについて考察する。	・色は光から発していることに気づかせる。 ・他の動物とヒトの、色覚や目の構造の違いを知る。 ・「もし部屋が真っ赤（または青、または黄）だったら」などの仮定や、慶弔に用いる紅白幕など、具体的な例からイメージして、色と生活の関連性を感じ取らせる。
展 開 1	・色の三属性（色相、明度、彩度）について理解する。 ・色の大別（無彩色と有彩色）について理解する。 ・色相環とその色の配列の規則性について理解する。 ・補色の関係を理解する。 ・色立体の構造と色の配列の関係を理解し、色の学習のまとめとする。	・身の回りにある様々なものを用いて具体的に色を比較し、色相、明度、彩度の違いを見て取れるようにする。 ・有彩色も明度のみ取り出せば無彩色に置き換えられることに気づかせる。 ・色相環上の黄、赤、青の位置関係や、明度の高い色が上、低い色が下にあることに気づかせる。 ・補色の残像現象（赤い点を暫く凝視した後それを取り除くと網膜に青緑の点が残る）を実験し、人間の視覚に生得的に補色の感覚が備わっていることを体験させる。 ・色立体の中での色の配列から、色の三属性の位置づけを導き、全ての色が明度、彩度、色相の違いによって表されていることを再確認させる。

展 開 2	・ 水彩で、色みや明度、彩度の異なる様々な緑のヴァリエーション（目標＝100色）を作成する。	・ 予めマス目（192個）の引いてある画用紙を用いるが、1色を塗る面積や形は、マス目に沿っても、自由なレイアウトや絵にしても可とする。（目安として1色平均マス目2つ分程度であることを示す） ・ 窓外は山の新緑の時期で、色とりどりの緑が見られるので参考にさせる。 ・ 混色で色を変えていくには、混ぜる色同士の色みや明度の違い、分量の割合、無彩色の加え方などを工夫して、色の違いが表せるようにする。
展 開 3	・ 色の一般的な感情効果（寒暖、軽重、強弱など）とそれぞれの色の種別の関係を理解する。 ・ 色料、色光の三原色とその混色の違いを理解する。	・ なぜそのような感じを持つのか、色と感じの因果関係についても考えさせる。 ・ 色料と色光では三原色の色や混色時の明るさが異なること、また、三原色の混合で他の色が作られることも分かるようにする。
展 開 4	・ 黄、青、赤の三色から、色のにじみを生かし、連続して色相の変化する色相環を彩色する。	・ 最初に水で環を描いて紙を濡らし、常に絵の具が乾かないよう気をつけながら、中間色をうまくにじませながら作れるようにする。 ・ 筆をこまめに洗って、色が濁らないよう注意する。



ま と め	・作成した色相環について自己評価カードを記入する。 ・班毎に代表作を互選して掲示し、講評を加えながら鑑賞し合う。	・以下の内容のカードを記入しながら自他の作品の良いところや工夫に気づけるようにする。 1988年 緑のヴァリエーション・色彩（色相） 自己評価・鑑賞カード 1年組組（ ）番 氏名（ ） ◎自分の作品について、どのくらい効果があつたかチェックしてみよう。 (5=とてもよい 4=よい 3=まあまあ 2=あと一歩 1=できなかった) <table border="1"> <thead> <tr> <th>緑のヴァリエーション</th> <th>色相環</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>最後まででいいに仕上げたか</td> <td></td> </tr> <tr> <td>緑の混り方や水加減はうまくできたか</td> <td></td> </tr> <tr> <td>自分の思い通りの色がつくれたか</td> <td></td> </tr> <tr> <td>緑を100色ぬることができたか</td> <td></td> </tr> <tr> <td>赤・黄・青の間の色はにぎまぎれにできたか</td> <td></td> </tr> <tr> <td>色の変化を規則的にさせられたか</td> <td></td> </tr> <tr> <td>色についての知識が深まったか</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ◎次の項目や質問について記入してください。(左：緑、右：色相環について書く) ●自分の作品で気に入ったところやうまくいったこと ●今回の制作でおもしろかったり印象に残ったこと ●自分なりに工夫したことやがんばったところ ●制作中に苦労した点やむずかしかったこと ☆他の人の作品をみて、すばらしいと思うものはありますか？また、それは作品のどんなところですか？	緑のヴァリエーション	色相環	最後まででいいに仕上げたか		緑の混り方や水加減はうまくできたか		自分の思い通りの色がつくれたか		緑を100色ぬることができたか		赤・黄・青の間の色はにぎまぎれにできたか		色の変化を規則的にさせられたか		色についての知識が深まったか		合計	
緑のヴァリエーション	色相環																			
最後まででいいに仕上げたか																				
緑の混り方や水加減はうまくできたか																				
自分の思い通りの色がつくれたか																				
緑を100色ぬることができたか																				
赤・黄・青の間の色はにぎまぎれにできたか																				
色の変化を規則的にさせられたか																				
色についての知識が深まったか																				
合計																				

4 考察と課題

色の学習（展開1）の結果、『色が異なる』ことと“色の三属性”の因果関係を、概ねの生徒が見分けられるようになり、その後、緑のヴァリエーションの彩色（展開2）を行った。緑色を作る過程で、最初はどこまでを緑の範疇として捉えてよいか戸惑い、「これも緑？」と質問してくる生徒もいたが、少しでも緑みを感じられれば可であることを示すと、各自工夫しながら、明度や彩度に幅のある緑を混色するようになった。ただ、色のトーンがグレイッシュなものや、他の色みを加えた濁色系の緑に偏る傾向が強く、清色（彩度の高い緑）の変化があまり多くつくれなかった点は、今後指導の工夫を加えていきたい。

また、展開1の学習前に、予備知識なしで緑のヴァリエーションの彩色を行って、学習の事前事後の効果を比較してみるのも一考である。

色相環の彩色（展開4）は濡れている画面上で色がにじむため、水加減や筆の運びなど、色の変化の調整に微細な感覚が要求される作業である。が、生徒は色がにじみながら広がる様子を楽しみながら、慎重に筆を運んで色の変化をつけ、ほとんどの生徒が色を濁らせることなく三原色の中間の色を作ることができた。実際の自然な色相の変化は区切りがなく連続したものであることや、三原色から全ての色相を作り出すことができることを体感できたと思う。

この次に続く題材として水彩による風景画を予定しているため、この後さまざまな水彩画の技法の演習も行った。これらをうまくフィードバックしながら、風景画における色の扱いに一層効果が現れるよう指導をつなげていく。

映像言語で表現する「アニメーション制作を通じて」

〔第2, 3学年選択・10時間〕

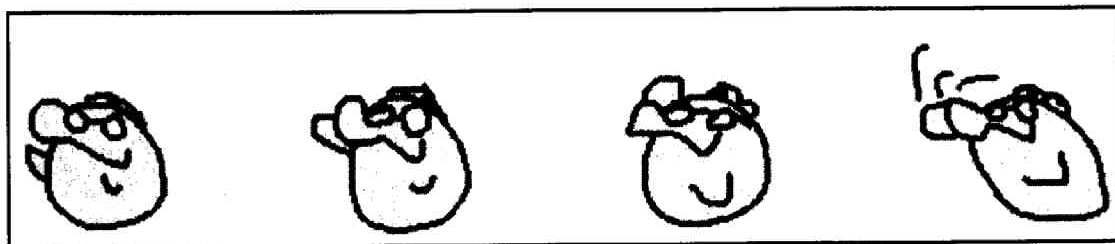
1 題材設定の理由

最近、各教科でパソコンを使用する授業が増えてきている。パソコンというと、今までは専門的な知識がかなり必要なものであったが、ここ数年のハードウェアとソフトウェアの進歩により、今では家庭でも趣味や娯楽として手軽に扱える身近なものになってきている。パソコンソフトを上手に利用することで初めてパソコンに触れる生徒たちにも、無理なく、クリエイティブな活動を組み込んだ授業展開が可能である。



実際、「パソコンを使って作品をつくろう。」と言うと目を輝かせる生徒たちが数多くいる。「やりたい。やってみたい。」という意欲は自然と集中力を生み出す。これは作品制作の上で大きな力となり『ものをつくる喜び』に変わっていくだろう。また、このようにして作られた生徒作品は、主張を持たせることで、インパクトのある映像言語となりうるものである。そして、こういったデジタル化されたコンテンツの最大のメリットは、誰にでも手軽に、ネットワークを通して世界に向かって情報の発信者になれるところにある。インターネットを代表とするネットワークの利用にはさまざまな問題があるが、大きな可能性を秘めていることも事実である。

今回の授業は、アニメーションソフトが、どのような動きをするのかを体験すること。その動きを知ることで、自ら考え、自ら主張するための作品を作れるようになることが目的である。また、実際にアニメーション制作を経験した後は、今身近にあるTVやパソコンゲーム等のCGにも新たな視点で鑑賞する事が可能になるのではないだろうか。



2 指導のねらい

- (1) パソコンソフトを使用して動画と音を組み合わせ、ストーリー性を持ったアニメーション作品を制作する。
- (2) 互いの作品を発表、鑑賞することで他人の作品のよさを認める。

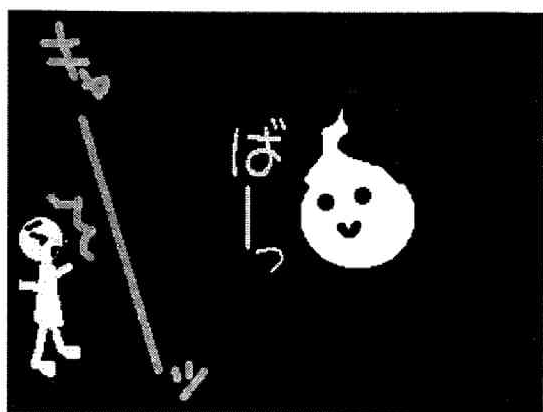
3 学習の展開

	時間	学習活動	指導上の留意点
導入	1	- 授業内容を理解する。 - 配布された綴じてあるメモ用紙に「ばらばらまんが」を制作する。	- 制作の手順について説明する。 - 極端な絵の変化では動いているように見えないが、少しずつ絵を変化させると動画になることを「ばらばらまんが」で理解させる。
展開1	2	- windowsを起動させ、基本的なパソコンの操作方法を学ぶ。 ① ペン、ブラシ、消しゴム等基本的なツールを使ってマウスで絵を描く。 ② アクターを使ってアニメーション（動画）を作る。 ③ 作品をフロッピーに保存する。	- 起動、保存の方法など初歩的なことから段階をおって操作方法を説明する。 - 一つ一つの操作をネットワークシステム（PC SEMI）を利用し理解できているか確認する。生徒全員が理解するまで説明を先に進めない。パソコンの使用に慣れている生徒は周りの生徒に教えてもよいこととする。 - ソフトを使用してどんな描画方法や動きができるのか体験させる。 - 自分の描いた絵がモニターで動く、という単純なおどろきや喜びを味合わせ、その気持ちを大切にさせる。
展開2	1	- 構想を練る。 ① テーマを決める ② キャラクターを決める。 ③ ストーリーを決める。 ・プリントにまとめる。	- 既製のキャラクターやストーリーを使用しないよう指導する。 - 自由に発想させる。
展開3	5	- ストーリー性のあるアニメーションを制作。 ① キャラクターを動かす。 ② 背景を描いてストーリー性を強める。 ③ 動画にあわせて効果音をつける。	多く寄せられる質問や参考になる操作方はネットワークシステムで全員に紹介する。またこのシステムを利用し、授業の最後には毎時間お互いの作品（未完成）を鑑賞させる。他の生徒の作品を見たり、意見を聞いたりすることによって次のステップへの課題を発見する手がかりとさせる。

		④ スコアパネルを使って、背景、アクター、効果音、BGM、画面効果を組み合わせストーリー性のあるアニメーションを完成させる。	・自分独自の表現ができるよう指導していく。
まとめ	1	・完成したお互いのアニメーションを鑑賞する。	・伝えたい内容がアニメーションによって表現できたか、考えさせる。 ・互いに作品鑑賞や制作活動を通して感じたことを発表させる。

4 考察と課題

パソコンソフトを使用することで、今まで機材、技術の両面で多くの問題があったアニメーション制作が容易になった。また、簡単な操作で様々な効果を用いた描画も可能である。しかし、あらゆる表現をパソコンで代用し得る、というような誤った考えを植え付けることにならないよう配慮が必要である。メディアの発達により、ありとあらゆる情報は収集しやすくなったが、取捨選択する能力がなければ活用できない。また、情報発信をすることも容易になったが、マナーやコミュニケーション能力が欠けていては何もできないだろう。パソコンを自己表現手段の制作道具の一つとして、また情報収集や情報発信の道具として生徒たちが活用できるよう指導しなければいけない。



いくつかの想定から発想する空想画

〔第2学年・10時間〕

1 題材設定の理由

空想画は心の内面や心情を表現でき、イメージする能力を引き出すのに効果的な題材である。第2次成長期で心情的にも大きく揺れ動く中学生にとって、心の内部を絵に表現することは、自らを知るために大切なことである。本題材では、絵画制作と鑑賞を兼ねた授業を展開し、教師の働きかけや生徒相互のコミュニケーションを多く取り入れた授業にすることで、生徒の「感じる心・感じ合える心」が素直に育てられるのではと考えた。ただ、発想に戸惑い表現に至るまでの時間がかかる生徒にとっては、空想画を自由に描かせてもなかなか制作が進まないという実態がある。そこで、発想する段階で、生徒の感じる心が生まれやすいような「問いかけ」を重視し、イメージトレーニングしてから、いくつか想定した課題の中から選択させ、空想画を描かせてみることにした。

2 指導のねらい

(1) ビデオや資料集より、空想画の画家（シュールレアリズムの画家など中心）の作品を鑑賞し、空想画のおもしろさや、いろいろな画家が個性的な表現を取り組んできたことを学ばせる。また、友人と印象に残った画家や絵について意見交換し、いろいろな捉え方があることを感じさせる。

(2) 空想画の発想法についていくつかの方法があることを学ばせる。

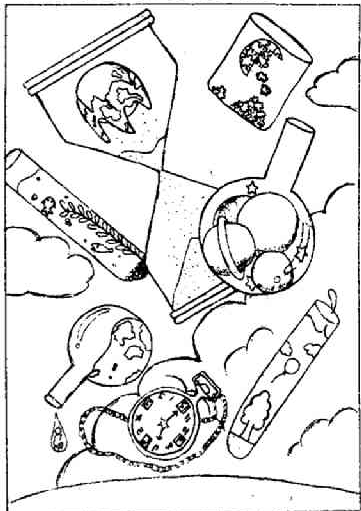
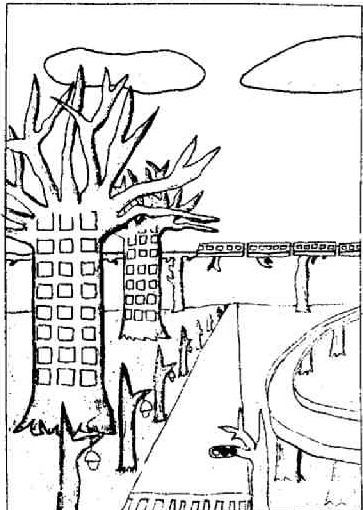
今回は想定されたものから、空想画について理解させ、まずイメージトレーニングから始めて発想の喚起をする。心理的な問いかけをして思ったことを文面で書かせ、その後発表させ、友人との発想の違いの面白さに気付かせる。いくつか想定されたものを表示し、イメージが広がるものを選んで空想画の制作に取り組ませる。また、制作カードを利用して、計画的に作業が進められるようにした。

(3) モダンテクニックの技法利用も効果的なことを教え、自分の作品表現に応用できるか考えさせる。

(4) 作品完成後、生徒相互で作品を鑑賞し合い、完成の喜びを味わわせるとともに、友達の作品のよさを感じ合えるようにする。また、制作全般を通してやってきたことをまとめ、生徒自身が、自己評価できる力を養う。

3 学習の展開

	時間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
（ 導 鑑 入 賞 ）	1 時 間	①ビデオを見て、印象に残った画家や作品を鑑賞カードにメモする。資料集や画集も見て空想画家の作品鑑賞する ②鑑賞した感想をお互いに述べ合う。	・20分程度の空想画家のビデオ見させ、資料集、画集も利用し、興味関心をもたせるように解説する。

(展 制 開 作)	2 時 間	①空想画の発想法について学ぶ。 ②イメージトレーニングをする。出された質問からイメージしたことを文に書く。友達とのイメージの違いを発見する。 ③想定された課題から、空想画のアイデアスケッチをする。 アイデアスケッチを考えよう！ 	・資料集を参考に発想が色々あることを学ばせる。 ・イメージトレーニング用のプリントを利用し、記述させて発表させる。 アイデアスケッチを考えよう！ 
	1 時 間	①モダンテクニックについて学ぶ。 ②自分の作品に応用できるか具体的に構想を練る。	・基本的な技法を教え、練習させる。自分の作品に効果的なら応用させ、適切なアドバイスをする。
	5 時 間	①画用紙にアイデアスケッチをもとに空想画の下絵を描く。 ②計画的に作業し、着色していく。	・A3程度の画用紙で制作させる。 ・制作カードを利用して、毎時間自分の作業進度を確かめさせる。
	鑑 ま 賞 と ・ め 評 価 1 時 間	①完成した作品を生徒相互で鑑賞し合い、喜びを味わう。感想を鑑賞カードに記入して意見を述べ合う。 ②今までの制作を振り返って、カード類をまとめ、総合的に自己評価する。	・作品を掲示。それぞれのよさをあげて、互いの表現を認め合えるよう促す。 ・単に描いて終わりにならないよう授業のまとめをし、自分の学習したことを再認識させる。

◆ 想定課題例

- 1 春うららかな日、あなたは気持ち良くうたた寝をしていました。ふと目が覚めると、驚いたことにそこは見たことのないある季節の不思議な風景が広がる世界にいました。一体そこはどんな所で、どんな不思議な現象が起きていましたか。
- 2 あなたは、宇宙の旅に出かけました。ある惑星に着くと、そこは何故か地球とよく似た感じの所でした。ところが良く見ると、動物も植物も風景も見たことのあるようでどこか違っているのです。どのように違っているのでしょうか。
- 3 夢の中であなたは、小さな昆虫か動物になってしまいました。小さな体になってしまうとそこは未知の世界。一体どんな世界に見えているのでしょうか。 など

ヴィジュアル・ミュージック～映像詩の制作〔第2, 3学年選択・8時間〕

1 題材設定の理由

映像による伝達・表現は、映画やテレビを通じて浸透し、それらなしでは考えられない社会になっている。映像表現が、児童・生徒の精神的発達（感受性や表現力）に、深く影響してきていることは誰もが否定しない事実である。またそのことが、場合によっては深刻な事態を引き起こすこともある。一つは、日常的に意識しなくても流される映像にさらされることによって、生徒の想像力・イメージ喚起力が弱められている現実である。生徒一人一人に、自らの想像力やイメージ喚起力を回復させ、映像の時代に対応させるために、能動的にそれに働きかける力をもたせることが必要だと考える。

自分のもつイメージをコントロールしながら映像作品を制作することは、つくり手と送り手の作業を体験し、いかに受け手に対して伝達・表現していくべきかを学ぶこと、また、能動的な受け手として、映像表現における美的な体験をすることが可能である。物語を特にもたず、具体的な対象のないイメージで構成された詩的な映像作品（映像詩）は、20世紀初頭から制作されてきた。映像の制作に当たっては、このような映像詩を取り上げることが、発想から表現への動機付けがしやすく、表現の可能性が更に広がると考える。

2 指導のねらい

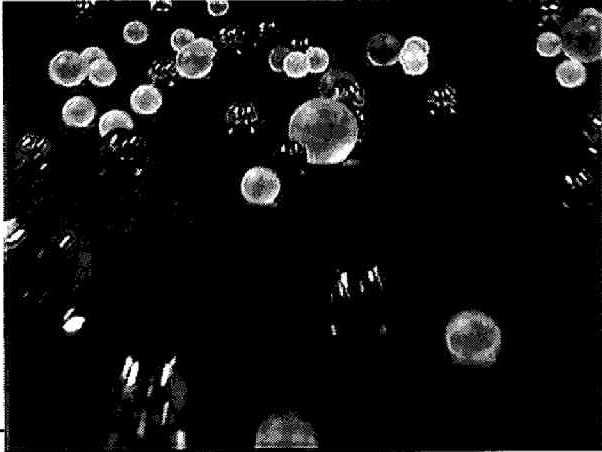
- (1) 「映像詩」の共同制作を通して、映像表現の基本的な方法を学ぶ
- (2) 一つのイメージを基に、視覚（映像）と聴覚（音・音楽）と言語の結び付け、自分なりにまとめ上げる力をはぐくむ。
- (3) 時間と空間の連動した、あるいはそれらを超えた美的な体験をさせる。

3 学習の展開

使用する用具と材料

デジタル・ビデオカメラ VHSビデオ・デッキ 100wライト数個とライトスタンド 三脚 デジタル・ビデオテープ 音楽テープ（触媒音楽用、CD、CD-Rでも良い） 台面（セットのフィールドとなる＝1m×1m×1cmのベニヤ板） 素材（ビー玉 水 氷 小麦粉または石粉 小石 綿 糸 針金 紙 砂 枯枝・枯葉 泡鉄球 白・黒・赤の布 透明・黒ポリ袋 アルミ箱 透明プラ板）

	時間	指 導 の 過 程	指 導 上 の 留 意 点
導 入	1	●映像詩（抽象的な表現の映像作品）の作品を鑑賞させる。 ●映像詩制作の説明をする。（目標と条件等）	○異なる性格の作品の鑑賞。 ○物語のない映像について説明。
展 開 1	3	●チーム決め。 ●チームに触媒音楽（イメージの足がかりになる音・音楽。テープに一つずつ録音してある）を配布する。	○2～3人の制作班を決める。チーム名を決定。 ○音楽や音はメロディーや展開の少ないものを選択し、配布するそれぞれは感覚的に異方向のものになるよう配慮する。

展		●触媒音楽から誘発されるイメージをもとに映像の組み立て（シーンやシークエンスの大まかな展開）を考える。 （映像の組立図に記入する。） 映像の条件 A. 決められた素材の中から3つ以上6つ以下選び、その素材を使って映像をつくる。 B. 台面上（1m×1m）のできるアクションに限る。 C. 全体の時間は、1～3分とする。 D. 制作時間45分以内におさめる。	○素材の組み合わせを考える。 ↓ 素材についてどのようなアクションが考えられるか、あるいはどのような撮影効果があるかを考える。 ↓ アクションをどのように全体の中に組み立てるか考える ○カット割りなど簡単な映像技法の説明。 ○絵コンテの用紙に記入する。カットごとに、構図（アングルやズーム）、時間、ライティング、シャッタースピード、絞り、エフェクトを決めていく。 ○ライティングの違いや、カメラのエフェクトについて例を出して説明する。
開	1	●組み立てをもとにしてシーンやカットごとの計画案（プロット）を立てる。（絵コンテづくり）	
展	3	●完成した計画案（プロット）をもとに、撮影をする。 （セットは1m×1mの台上でセッティングする。背景は黒布とする） ●撮影したテープを確認する。 ●撮影したテープを編集する。 （デジタル・ビデオ→VHSビデオデッキ） ●編集した映像に音楽・音をつける。 （配布された触媒 音楽） VHSビデオデッキ→VHSビデオデッキ ↑ CDデッキ（音楽）	○機材が少ない場合は、チームの撮影順を決める。 ○絵コンテの順番通りに撮影を進める必要はない。（後で編集できる） ○絵コンテで計画した映像が確保されているかの確認。 ○絵コンテの計画に従って映像を組んでいく ○タイトルと制作チーム名を冒頭につける ○音響は触媒音楽のみとする
開	2		
ま	1	●完成した映像作品をお互いに鑑賞する ●それぞれの作品についての感想・意見を書き、交換する	○鑑賞の際には、映像と音響が効果的に伝わる環境整備・機器調整を行う。 ○音楽・音の持つイメージが映像に反映されているか、素材の使い方はどうか、カット割り等の映像技法の扱いはどうか。
と			
め			

レリーフペインティングを使った構成 [第3学年選択・8時間]

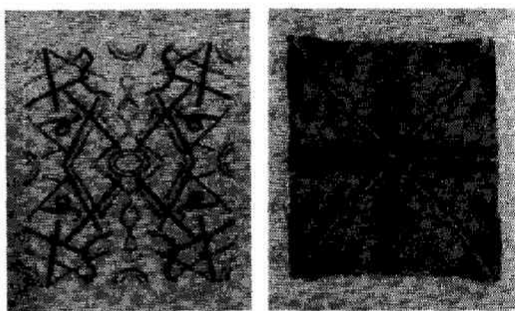
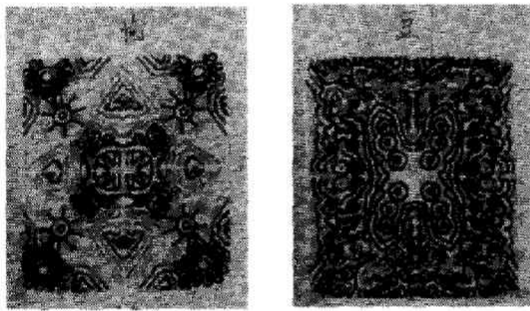
1 題材設定の理由

自分の思い描いたイメージや心象風景を絵画や立体作品に表現する一つの方法として、レリーフペインティングを取り上げてみた。これは、アメリカの作家フランク・ステラの作品に見られる同心円や正方形を使って構成する立体作品のことである。型抜きしたボール紙に着色し、重ねる、おく、つなげる、つるすといった平面から立体への造形活動が、生徒にとっては自由な活動として展開できる。さらに、週1時間の選択授業においても構想から制作まで、各時間毎に満足感・成就感があり、次時への発展性のある題材と考えた。

2 指導のねらい

- (1) 色や形についての基本練習を行い、抽象形態や配色の工夫を感じとらせる。
- (2) 自分のイメージにあった色や形を構成するために、着彩方法や配色効果を工夫させる。
- (3) 完成作品を鑑賞し、互いに感想を書き合い、意見交換させる。
- (4) 校内展示や行事における、発表の場を工夫し感じ合う。

3 学習の展開

	時間	指導の過程	指導上の留意点
導入	1時間	(1) 色彩の練習 「ティッシュアート」の取組  ①ティッシュペーパー（箱入り）を1枚取り出し、それを、2回折って、4枚重ねの長方形を作る。 ②折り目が、中心になることを考えながら、水性サインペン（細字）で、指でおさえながら、もようをかく。 ③ティッシュペーパーが破れないようにゆっくりと広げる。 ④広げた作品を見ながら題名をつける。	 ・2枚重ねのうちの1枚をはがすとき、破れやすので注意させる。 ・線をかこうとすると破れるので、あくまで点々をのせるようにかかせる。 ・それぞれの作品について意見を発表させる。
	5時間 6時間 展開	(2) レリーフペインティングの制作 ①同心円や正方形などで、型抜きされたボール紙のパーツを着色させる。 〈着彩方法〉 ア)ポスターカラーを筆で着色する。 イ)スパッタリングなどの技法を使う。	・型抜き抜いてバラバラにして裏面や側面も着色してもよいし、片面だけでもよい。 ・どんなイメージにしたいか、着彩しながら構想を練る。

		り指を使って着色する。 ①カラスプレーや色えんぴつなどの材料を使う。 〈配色効果〉 ・グラデーション、補色、色の対比などを取り入れる。	
構成	4 時間	②着色したパーツを台面においたり、立体的に組み合わせたりして、構成を考えさせる。 ③決定したパーツ同士、木工用ボンドや両面テープなどで固定させる。	・台面に置く、つるす、はる、など、いろいろな場合を考えて平面か、立体か選択させる。 ・平面の場合は、背景面の色、立体の場合は、台面の色を考えさせる。
まとめ	1 時間	○完成した作品を見ながら、互いに意見交換、感想カードをかかせる。	

〈11月の文化祭で、各々の作品の展示方法を考えさせ、展示させる。〉

4 評価

- (1) ティッシュアートの取組により抽象形態に親しみ、配色の工夫が感じとれたか。
- (2) 自分のイメージにあった色や形を構成するために、着彩方法や配色効果が工夫できたか。画面や空間の中で、個性的な構成ができていたか。
- (3) 自分の作品についての感想が、言葉で書けているか。また、互いに意見交換することで、他者の作品のよさについて感じられたか。

『中学生の私』 [第3学年 10時間]

1 題材設定の理由

発達段階において、中学生はまさに子どもから大人への過渡期であり、今まで大人から与えられた価値観が自分の価値観へと昇華していく時である。そして、自分自身の思いと社会や大人のそれとの溝に悩み、苦しみ、もがく時期でもある。この時期に今まで自分が歩んできた道をふり返し、今の自分を確認し、これからの自分をイメージすることは大切なことである。

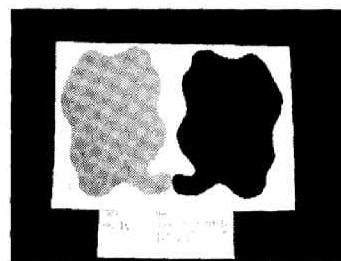
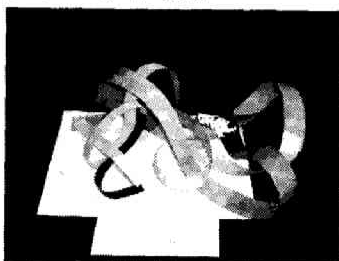
中学校の3学年は、「美術」を必修で学ぶ最終年である。生徒は、今後「美術」を上級学校や社会教育の中で高め、生かしていくのである。今まで学んだ技術や知識を生かし、感じる心を研ぎ澄まして『中学生の私』を自分らしい表現方法で表現することは、自己理解を深める区切りの時にふさわしい題材ではないだろうか。さらに、生徒相互の作品の鑑賞を通して、お互いの個性やよさに気づき、感じ合う心・友人を理解する心情がはぐくまれる題材ではないだろうかと考え本題材を設定した。

2 指導のねらい

- (1) ワークシートを通して今までの自分をふり返し、どんな『中学生の私』を表現するか、どんな表現方法があるか、発想を広げよりよい表現を目指す。生徒は授業毎ファイルに記録（ポートフォリオ）を取り、次の授業までに教師はアドバイスを書き込む。
- (2) 多くの素材の中から表現に最も適した素材を選択し、道具を正しく安全に使用して制作する。
- (3) 見通しを持って計画的に制作する。
- (4) 制作ならびに制作中の鑑賞を通して、自分のよさ・友人のよさに気づき、お互いの感じる心・感じ合う心をはぐくみ高める。

3 学習の展開

指導の流れ	学習活動	指導上の留意点
導入1	①ワークシート1の記入。小グループでのディスカッション。いままでの中学生生活をふり返る。・思い出の共有。その時の自分の思い・友人の思いなどを確認する。(ワークシート1-A)	・学校行事や学校生活の中から、具体例をあげながら中学生生活を思い出させる。その時感じた思いやその時の状況について記述させる。
導入2	②ディスカッションの中で最も印象に残ったことを小作品にする。(素材は共通・表現方法自由) ③グループ内で発表・鑑賞。 ④簡単な説明文をつけ教室展示。学級全員で鑑賞。 ⑤作品は廊下に貼り、学年全員で相互鑑賞する。 《導入2の小作品》	・短時間で工夫しながら制作させる。 ・自分の作品を自己採点する。 ・鑑賞後、再度自己採点、感想を書く。



①この課題で最も表現したい『自分』を選び表現方法を考える。制作方法・素材などの検討。制作計画を立てる。(ワークシート1-B)
②完成予想図を描く。(ワークシート2)
《作業風景》

・ワークシート、制作の記録などから、生徒の発想や表現方法などを理解し、よりイメージを広げるように促す。

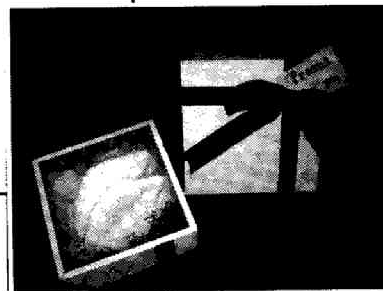
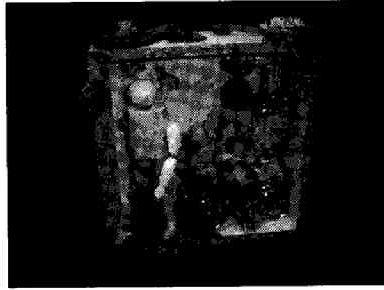
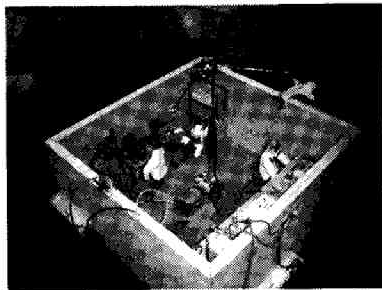
《箱》を意識させる。



③各自の制作計画に沿って制作。よりよい表現があれば変更したり・工夫する。

《完 成 作 品》

・自分の思いを表現できているか、確認させる。



- ・道具の使い方を指導する。
- ・制作上の悩み・質問に対応する。(ファイル・授業の記録を活用)

・制作中も生徒相互が鑑賞し合うよう促す。

①「作品名」「作品解説」「作品自己評価カード」の記入

・鑑賞を通して、感じ方の違い・表現の違いやその人のよさに気付くように促す。

②小グループでのディスカッション

③全員で作品鑑賞。お互いのよさ・感じ方や表現の違いを中心に鑑賞。感想を書く。

④作品展で他のクラス作品を鑑賞する。

よかった点

- (1) 小作品をつくり相互鑑賞し合い、同じテーマでも人により感じ方・表現方法が異なることを実感するとともに、友達からプラスの評価をされることで、表現に自信をもてた生徒が多かった。この経験は自己表現が苦手な生徒ほど有効で、今後の指導に結び付いてくる。
- (2) 授業でファイルに記録をとらせる（ポートフォリオ）ことで、計画的に作業しようとする生

- 徒が増えた。同時に毎時間ごと生徒⇄教師でファイルが往復することで、教師は生徒一人一人表現上の悩み・つまづきなどを知り支援したり、作品のよさを個々に文字や言葉で評価したりすることができたと思う。表現方法・素材・制作方法については、経験不足からイメージが固定化する傾向が強く、その殻を破る意味でも大変有効であった。感じ方・考え方などについては、肯定・共感されることで精神的に開放され、伸びやかな表現に結び付くことが多かった。
- (3) 授業中も集中し制作に取り組み、相互に感想を述べ合ったり、アドバイスし合ったりと、一人一人が作品を通して様々なことを感じ、お互いを感じ合いながら、授業が創られていった。

検討点・課題点

- (1) 今までに造形経験が乏しかった生徒も多く、様々な素材・材料の中から決定する力が弱かったり、道具を使いこなせない生徒も目立った。この点については、授業内で個々の指導になるので時間的に厳しかった。また、授業準備・片付けに時間がかかった。
- (2) 次の授業までに生徒一人一人制作状況を把握するためファイルに目を通し、アドバイスを書き込むのにかなり時間がかかった。
- (3) 課題制約があまり無いので、表現することが苦手な生徒にとってはかえって難しい課題のようである。
- (4) 作品の評価観点が抽象的になり、生徒にとって基準がわかりにくいので、生徒自身の自己評価や相互評価も加味するなど客観性を持たせるよう努力した。

《ポートフォリオ》

予定・計画	報告	自己評価
学生生活を振り返る。 1. 記入。授業後提出。 より、小作品を制作する。	授業の感想を書きなさい。 なつがしい気持ちになった。	10 作品
友達と作品を鑑賞して感じた事を書きなさい。	友達の作品を鑑賞して感じた事を書きなさい。 みんな、いろいろと作りだして、とてもおもしろい作品を作った。	9 作品
3 制作 「デザイン・建築」を表現するか、その表現方法・素材について検討し、計画を立てる。	質問・感想など 質問・感想など 質問・感想など	9 作品
4 制作 「デザイン・建築」を表現するか、その表現方法・素材について検討し、計画を立てる。	質問・感想など 質問・感想など 質問・感想など	9 作品
5 制作 「デザイン・建築」を表現するか、その表現方法・素材について検討し、計画を立てる。	質問・感想など 質問・感想など 質問・感想など	9 作品

↑ 表紙

《ワークシート1-A》

1. 以下の表にこれまでの中学生生活を振り返りまとめよう。(事項：その時の気持ちを中心に、簡単な言葉で)

今まで	中学1年	中学2年	中学3年

《ワークシート1-B》

イメージを伝えるようなラフスケッチや言葉などを自由に書き、作品の具体的なイメージ作りをしよう。

《ワークシート2》

完成予想図(図案、工程表、制作手順など)を自由に描きなさい。ただし、完成予想図に書き加えても構いません。その場合は完成予想図にこのプリントの右上に書きなさい。

※これから先の質問には、作品が完成した時点で記入してください。(点数はすべて10点満点です)

3. たのしく制作できましたか？ また、その点数をつけた理由はどうしてですか？

点 理由

4. 自分の表現したかった事を10とすると、どのくらい表現できましたか？ また、その理由はどうしてですか？

点 理由

5. 授業での進捗度は何点ですか？ 8. 計画的に制作できましたか？

点 点

7. ファイルを書き、提出する事について感想を書いてください。

8. この課題について感想を書いてください。

年間指導計画例 ～題材の配列と評価～

1 研究のねらい

平成14年度から実施される新教育課程に基づいた年間指導計画の作成にあたっての課題として、完全学校週5日制の実施による教育内容の厳選、基礎的・基本的な学習内容の確実な習得等が挙げられる。また、評価の改善と工夫が大きな課題となっている。

これらの課題をいかに解決し、創造的な能力を伸ばし、豊かな感性と豊かな情操、『感じる心・感じ合う心』を育てる授業・指導を行うことができるかを考えるためには、年間指導計画における題材の配列、及び絶対評価・個人内評価の重視をテーマとして研究を行ない、試案を作成することが重要だと考え研究のねらいとした。

2 題材の配列について

基礎的・基本的な能力の育成と、生徒の感性や意欲を刺激し、生徒が積極的に授業に取り組み、創造活動の喜びと感性の深まり広がりを実感できるようにするには、段階的に関連付けられた題材の設定を工夫しなければならない。つまり、1年生の1学期の指導計画においても、3年間の題材のつながりや1学年の学習の流れを十分考慮して作成することが重要である。

【第1学年例】(1学期)… 表現技法の基礎・基本を学ぶ

(2学期)… 水彩画(模写:バルビゾン派・印象派を中心として)

(3学期)… 水彩画額作り(額用マットに着色や貼り付け等自由)

さらに、各題材の学習指導要領との関連、評価基準を明確にし、生徒や保護者に対しては、学習の目的と評価についてを日常的に共有できるようにしなければならない。

3 評価について

評価のための学習ではなく、学習を深め、能力を育成するための評価として、また、美術教育の重要な意義と独自性を重視した評価として、評価の在り方を工夫しなければならない。

観点別(関心・意欲・態度、創造的な技能、発想や構想の能力、鑑賞の能力)学習状況の評価を基本として、納得性・妥当性のある目標(評価基準)と評価方法を設定・明確化し、目標に準拠した評価(絶対評価)と、生徒ごとのよい点や可能性、進捗状況などの評価(個人内評価)が中心となる。

4 評価方法について

様々な方法(観察・面接・質問紙・作品・ペーパーテストなど)を応用し組み合わせて評価を行わなければならない。例えば、“自己評価・鑑賞カード”を使用し、生徒が、自身の学習の取り組みへの自己評価、他者の作品と比べての自身の作品への自己評価を行い、それを活用することも有効である。

美術科(1年)年間指導計画

授業時数(年間45時間、1学期15時間)

1 学 期		
月	教 材 名 ・ 内 容	
4 月	オリエンテーション ・美術で何を学ぶか ・1年間の授業内容、評価の仕方について ・授業および美術室使用における注意事項	1 時間
	○『鉛筆による表現』講義・実技 技法の理解・表現の実感 『鉛筆による表現』についての指導。 ・鉛筆による微妙な表現・鉛筆画の注意点 ・陰影による立体感の表現の工夫 【制作上の注意】円柱に陰影をつけ立体感を表現する。陰影は側面のみ。横一方向からの光を想定し、徐々に変化する明暗の表現。Bか2Bの鉛筆で制作。	2 時間
5 月	○『歯のポスター』講義・実技 技法の理解・表現の実感 『歯のポスター』についての指導。 ・市主催『歯のポスター』に、全員が提出。制作は各自自宅で。授業では、原案を完成させる。 ・テーマについて・効果的効率的な表現技法について・注意事項 【制作上の注意】それぞれのコピーに基づいた・アイディアスケッチ・レイアウト・配色について。	2 時間
	○『手のデッサン』講義・実技 論理的把握・理解 表現の実感 『手のデッサン』についての指導。 ・手の特徴：親指の位置・指の関節・細部の表現・陰影のつけ方 【制作上の注意】 ・ポーズの制限あり(美術的表現を意識して)・手首を少し入れ大きさは基準を指定	2 時間
6 月	自己評価・鑑賞カード記入 (鉛筆による表現・歯のポスター・手のデッサン) ・他者の作品についての理解と自己の作品についての客観的把握。 ・自己の制作態度についての評価反省。	0.5 時間
	○『色彩について』(基礎)講義 論理的把握・理解 『色彩について』(基礎)についての指導。 ・色の三要素・色相環・補色関係・色立体	1.5 時間
	○『水彩画の技法』講義 技法の理解 『水彩画の技法』についての指導。 ・用具について・パレットの色配置について ・混色について・塗り方について	1 時間
7 月	○『水彩絵の具による混色表現』実技 表現の実感 【制作上の注意】 ・混色による色のバリエーション・色相変化と明度変化	4 時間
	自己評価・鑑賞カード記入 (水彩絵の具による混色表現) ・他者の作品についての理解と自己の作品についての客観的把握。 ・自己の制作態度についての評価反省。 1 学期を振り返って	1 時間
	期末考査(30分)	

(使用教科書)

学習指導要領との関連	評価基準
A 表現 (1) 絵や彫刻などに表現する活動を通して、次のことができるよう指導する。 ウ 描画における形や色彩の表し方、彫刻などにおける立体としてのものの見方や形体の表し方、意図に応じた材料や用具の生かし方などの基礎的技能を身に付けること。	☆美術への関心・意欲・態度 ・継続的に意欲的に取り組めたか。 ・基礎的技能を身に付けようとしているか。 ☆創造的な技能 ・立体としてのものの見方や形体の表し方、意図に応じた材料や用具の生かし方などの基礎的技能を身に付けているか。 (創造的な技能) A○・A・B・Cの4段階
A 表現 (1) 絵や彫刻などに表現する活動を通して、次のことができるよう指導する。 エ 自分の表したい感じを大切に多様な表現方法を工夫し、絵やイラストレーション、彫刻などに美しく生き生きと表現すること。 (2) デザインや工芸などに表現する活動を通して、次のことができるよう指導する。 ウ 伝えたい内容を図や写真・ビデオ・コンピュータ等映像メディアなどで、効果的で美しく表現し伝達・交流すること。	☆美術への関心・意欲・態度 ・目標や自らの課題意識(主題)をもっているか。 ・自分らしくよりよい表現を目指して試行錯誤をしつつ創意工夫をしようとしているか。 ☆発想や構想の能力 ・自分の表現の意図や構想、表現方法などを自己確認し、構図、全体と部分との関係やバランス、などを考えて創造的な構成を工夫し構想を練っているか。 (発想や構想の能力) A○・A・B・Cの4段階
A 表現 (1) 絵や彫刻などに表現する活動を通して、次のことができるよう指導する。 ア 自然や身近なものを観察し、形や色彩の特徴や美しさなどをとらえスケッチをすること。	☆美術への関心・意欲・態度 ・深く観察し、よさや美しさなどを発見しようとしているか。 ・自ら継続的に楽しく取り組み、向上の喜びを味わおうとしているか。 ☆創造的な技能 ・形の特徴や美しさなどをとらえているか。 ・材料や用具を効果的に生かして表現しているか。 (創造的な技能) A◎・A○・A・B○・B・Cの6段階
B 鑑賞 鑑賞の活動を通して、次のことができるよう指導する。 ア 想像力を働かせ、美術作品や児童生徒の表現などに表された作者の心情や意図と表現の工夫を感じ取り、作品の見方を広げ、多様な表現のよさや美しさなどを味わい、鑑賞に親しむこと。	☆美術への関心・意欲・態度(上記参照) ☆鑑賞の能力 ・いろいろな見方や感じ方を学び取り、多様な表現のよさや美しさを感じ取り味わっているか。
A 表現 (2) デザインや工芸などに表現する活動を通して、次のことができるよう指導する。 ア 形や色彩、材料、光などがもたらす性質や感情を理解し、機能的な生かし方を考え、美的感覚を働かせて美しく構成したり装飾したりすること。	☆美術への関心・意欲・態度 ・美術的な知識、考え方などに関心をもち、意欲的に身に付けようとしているか。 ★1学期期末考査でペーパーテスト
A 表現 (1) 絵や彫刻などに表現する活動を通して、次のことができるよう指導する。 ウ 描画における形や色彩の表し方、彫刻などにおける立体としてのものの見方や形体の表し方、意図に応じた材料や用具の生かし方などの基礎的技能を身に付けること。	☆美術への関心・意欲・態度 ・目標をよく理解し、よりよい表現を目指して創意工夫をしているか。 ☆創造的な技能 ・色彩の表し方、材料や用具の生かし方などの基礎的技能を身に付けているか。 (創造的な技能) A○・A・B・Cの4段階
B 鑑賞 鑑賞の活動を通して、次のことができるよう指導する。 ア 想像力を働かせ、美術作品や児童生徒の表現などに表された作者の心情や意図と表現の工夫を感じ取り、作品の見方を広げ、多様な表現のよさや美しさなどを味わい、鑑賞に親しむこと。	☆美術への関心・意欲・態度(上記参照) ☆鑑賞の能力 ・いろいろな見方や感じ方を学び取り、多様な表現のよさや美しさを感じ取り味わっているか。
	★上記参照

1 単位時間で完結する課題の例

〔第3学年・1時間～〕

1 題材設定の理由と研究のねらい

新教育課程における週1時間の授業では、授業の系統的・段階的な関連付けが少なく生徒の集中力を維持し難いことも想定される。1時間毎に目標を設定した授業を積み上げて指導することで、着実に美術の能力が高まると考え、以下の4点を留意して研究を深めてみた。

(1) 美術の基礎力をつける授業

必修の授業として、全ての生徒の力を伸ばすことができる授業を考えたい。基礎力については、今回は「ものの意味だけではなく、形や色彩で何かを表して伝えることができる」という視覚表現の方法に気付くことを目標に設定した。

(2) 制作することから「感じる」授業

素材を選び、まず制作してみる。そうしてできた作品から生徒各自の普段の「感じ方」がそのまま肯定され、認められるような授業をつくることを重視した。

(3) 制作と相互鑑賞の繰り返しから「感じ合う」授業

学級の仲間の作品を鑑賞し合うことで、自分の感じ方と他の生徒との違いに気付き、影響し合うような方法を考えてみた。さらに、作品を通じて積極的にコミュニケーションすることを体験できるような授業にまで発展させることをねらった。

(4) 作品の完成度の高さを目指すのではなく、生徒各自の「気付き」を生み出す授業

作品の完成度の高さを目指すと、どうしても「ウマイ・ヘタ」という差に生徒の関心が集中してしまう。結果ではなく、そこに行き着く過程の中で自分の個性や、表現すること、分かり合うことの楽しさに「気付き」ことを大切にしたい授業にしたい。

2 研究題材例 ― 文字から始める視覚表現の基礎「形と色で表そう、伝えよう」―

(1) 制作の準備

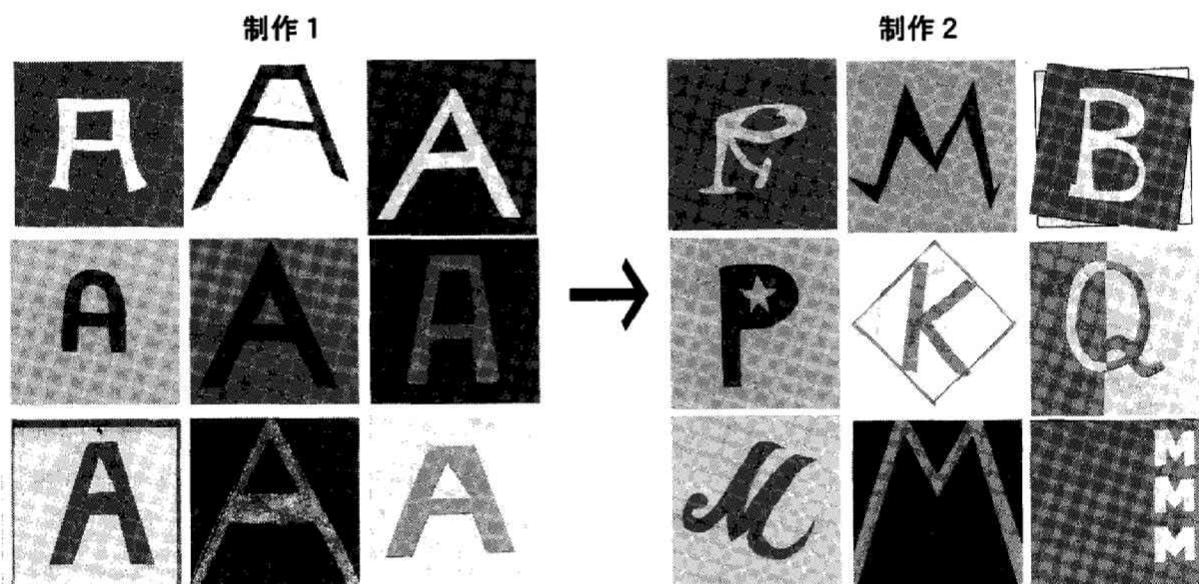
- ① 材料 色画用紙 12×12 cmに切ったカード（色数、枚数はできるだけ多く）
- ② 道具 カッター・カッターマット・はさみ・のり・コンパス・定規
- ③ 教室 ワンタッチ掲示板（黒ラシャ紙とゼムクリップで自作）

(2) 授業の展開

	授業の流れ	指導内容と留意点・生徒の様子	時間
1	制作方法の説明	色画用紙のカード2枚を使い、1枚を切抜いて形をつくりもう1枚に貼付けてつくる方法、制作時間、完成後の掲示、制作数は自由、などを説明	1分
2	道具と材料の用意	カード選びの様子を観察	5分
3	課題・制作1の説明	「アルファベットのA」を作る。質問にはできるだけ「O.K.」で応える。	2分
4	制作1	制作の様子を観察（切抜いた図と地の問題に気付く、丁寧な作図で時間が足りない、カードを半分に折って対称図形を切る生徒、など様々）	10分

5	掲示と相互評価	掲示することに抵抗がある生徒を安心させる。掲示して相互に鑑賞するだけで生徒は「気付き」始める。生徒を掲示板の前に集めて質問する。 「似ているものは？」 「どこが似ているか？」 みんなAだがみんな違う。個性がでていてよい＝意味ではなく形と色彩が重要だと気付かせる。	10分
6	課題・制作2の説明	掲示の鑑賞から、気付いた点を工夫してみることを促す。 課題2「アルファベットから自由に選んで」	10分
7	制作2	制作1で完成しなかった生徒に声をかける。制作のポイントをつかんだ生徒や工夫のあるものを発見する。	10分
8	作品掲示と相互評価	制作1からどう変化したかを含めて発表させ、相互評価させる。 質問して生徒から形と色彩の工夫について発言を引き出す。	10分

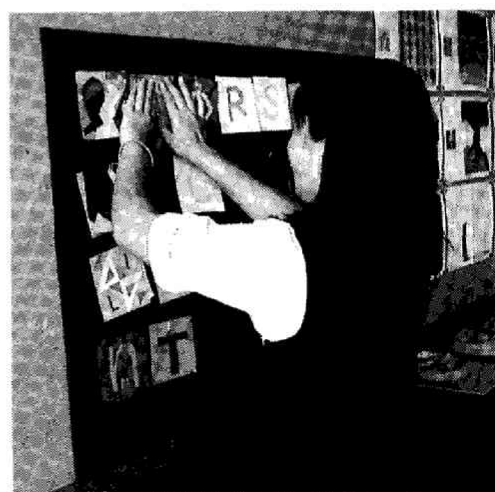
※制作1と制作2の同じ位置の作品は、同じ生徒がつくったものである



その後の授業展開
制作5
グループリレー制作
から3グループの作品



↓ 掲示の様子



3 評価項目と評価

- (1) 理解力…ものの意味以外のことを「形と色彩」で表現し伝えられることに気付いたか。
- (2) 表現の工夫…正方形の枠をうまく使えたか。逆にそれを壊すことで表現を工夫することができたか。制作方法、手順を工夫できたか
- (3) 作品の変化…生徒が①の作品掲示を見て、②の制作でどれだけ変化し成長したか。

4 1 単位時間の授業の連続性の工夫

1 時間ごとの授業に目標を設定する方法では授業の組合せ方に工夫が必要になる。

	課題	制作の方法、指導の要点	時間
制作 3	レイアウト	大きさ位置、重なりを工夫して、八切り画用紙上に色画用紙カードを使って表現する	2
制作 4	葉っぱ	具体物を再現する。平面的題材として「葉」のイメージを制作 1 と同じ方法で作った	1
制作 5	形と色で話そう	自分→友達→自分と作品を回覧、各自が制作を付け加えて完成させる協同制作をした	

IV 研究のまとめ

本研究では、「感じる心・感じ合う心を育てる指導の工夫」について、大きく 3 つの面から研究を進めてきた。それぞれの細かな成果については、各授業等の研究において述べてきたが、平成 14 年度からの新教育課程の実施に伴う「授業時間数の縮減」や「絶対評価」等の現実的な課題を踏まえなくては実践的な研究にならないと考え、次のようにまとめた。

(○は成果を◇は課題を示す)

1 題材や授業の流れ、授業内容、材料用具等からの研究及び検証

- 題材や授業の流れを一層工夫し、1 単位時間内の達成感を高めることと系統的・段階的な指導をすることで生徒の感じ方に広がりが見られるようになると考える。
- 活動の振り返りや記録の積み重ね（ポートフォリオ）、友達からの評価などを毎時間の授業の中に取り入れることにより、一人一人の生徒の感じ方や考え方が確かなものになる。
- ◇発想を生かす技法の指導や材料用具の活用法を更に工夫する必要がある。

2 映像メディア表現を取り入れた題材からの研究及び検証

- 映像メディア表現では、コンピュータを使うことによって簡単な操作で様々な効果を得られるようになり、自己表現の幅を広げることができる。
- ◇材料用具の関係から、選択の少人数授業では可能だが、必修の授業では難しい。

3 新学習指導要領上の課題解決の中での研究及び検証

- 「感じる心・感じ合える心」を育てるためには、1 題材毎の工夫とともに、学期や年間の授業計画の中で育てる能力を明確にすることが一層重要となっている。
- ◇1 単位時間で作業が完結したり、自他の評価が得られたり、次時への発展性が確認できたりする指導の工夫を考え、実践していくことが重要である。

4 今後の課題

平成 14 年度から行う「絶対評価」において、「感じる心や感じ合う心」等の数値化し難い項目を、どのように評価、評定するかを明確にする必要がある。そのためには、評価の 4 観点に沿ってバランスよく評価できる題材や指導案、年間指導計画の研究が重要となる。

平成13年度教育研究員研究報告書

〔東京都教育委員会印刷物登録
平成13年度 第41号〕

平成14年1月23日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1976

印刷会社名 株式会社 ドゥ・アーバン